星槎大学　生成 AI 利活用ガイドライン（20260619ver.）

はじめに

AI（人工知能）は、我々の日常生活に深く浸透し、その影響は学術分野にも及んでいます。とりわけ高度な対話型生成 AI は、利便性をもたらす一方で学術的不正のコストを下げ、盗用を隠蔽しやすくするリスクもはらんでいます。

本学における学修・研究の基盤は、「学問的誠実性（Academic Integrity）」にあります。これは、「他者からの信頼を勝ち取るために責任ある行動をとる」という、私たち一人ひとりの主体的な選択です。生成 AI の出力に対して責任を持つのは AI ではなく常に人間（利用者個人）であり、学生・大学院生にも自らの「自覚」と「責任」を明確にすることが求められています。

共生社会の創造を目指す本学においては、人間と生成 AI との公正な共生を求めていかなければなりません。本学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）には、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけることができる貢献力や、個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる実践力が謳われています。学生・大学院生の皆さんはそのことをしっかり認識してください。

1. ガイドラインの目的

本ガイドラインは、学問的誠実性に基づき、学生・大学院生が生成 AI を適切に利活用するための基準を定めることを目的とします。

2. 生成 AI の定義

本ガイドラインにおいて「生成 AI」とは、大規模言語モデルによるテキスト生成 AI をはじめ、学習したデータから文章、画像やプログラム等を新たに生成することができる人工知能システムの総称を指します。

3. 指針とすべき価値（学問的誠実性）

学生・大学院生は、生成 AI を利用する際、以下の 6 つの基本的価値を指針としてください。

1. **正直であること（Honesty）**：自身の成果と生成 AI の出力を偽らずに区別し、明示すること。
2. **信頼に応えること（Trust）**：正当な方法で学修や研究の成果物を作成し、教員や学友ひいては社会からの信頼に応えること。
3. **公正であること（Fairness）**：不正・不当な生成 AI 利活用によって、他の学生・大学院生（自力で取り組んでいる学生・大学院生）との公平性を損なわないこと。
4. **敬意を払うこと（Respect）**：生成 AI の学習元となった他者の知的成果や著作権に敬意を払うこと。
5. **責任をもつこと（Responsibility）**：生成 AI の出力内容の真偽を自ら確認し、その結果に責任を持つこと。
6. **勇気を失わないこと（Courage）**：生成 AI に頼り切る誘惑や不正な利活用につながる誘惑に負けず、自身で考え抜く勇気を持ち、誠実な学修・研究を貫くこと。

4. 生成 AI 利活用のルール

本学における生成 AI の利活用おいては、下記のルールを遵守してください。

1） 指導優先の原則

学修・研究活動等における生成 AI の利活用の「可否」や「範囲」は、科目によって異なるため、必ず事前に担当教員の指示を仰ぎ、それに従うこと。

2） 入力の制限

生成 AI に入力した内容は大規模言語モデルの学習データとして用いられるため、個人情報や機密情報等は絶対に入力しないこと。また、新たな研究のアイデアなども学習データに反映される可能性があることに注意すること。なお、自身が利用する生成 AI サービスの機密保持設定において、入力内容を学習データに反映することはないとされていても、完全ではないことを認識すること。

3）真偽の確認

生成 AI によってアウトプットされた生成物を無批判に信用し、真偽を確認せずに利活用してはならない。例えば文献などは実際に存在するかどうか、正しい書誌情報や内容を必ず確かめること。

4）明示の義務

教員からの許可の有無にかかわらず、学修や研究において生成 AI を使用した場合、その範囲や用途をレポートや論文、あるいは制作物内に明示すること。

5）禁止事項

学生・大学院生による以下の行為を学術的不正（剽窃等）とみなし、禁止する。

① レポート、論文、実習記録等の主要な成果部分について、生成 AI の出力をそのまま、あるいは一部改変のみで、自らが作成したものとして提出することを禁止する。

② 自身の意見表明が求められる場面で、自らの思考プロセスを介さず不当に生成 AI を使用することを禁止する。

③ 上記に該当する行為は、学則に基づく不正行為として取り扱われることがある。

以上